１．開　　会　17：30

２．会長挨拶

小山内会長：

皆さん、こんばんは。年末の忙しい中、この会議にお集まりいただきまして大変ありがとうございます。やっとコロナが落ち着いたかなと思ったのですけれども、１２月になってまたコロナ、インフルエンザと増えて、溶連菌も増えていますけれども、少しこれで落ち着くかなと思っているのですが、また年末年始の移動でどうなるかと思いながら、ただ、コロナに関して言っても、感染力が強くなっていますけれども悪性度、要するに人に対しての被害力というか。それは落ち着いてはいますので、皆さん十分気を付けていただきたいと思います。この会議も５類になってからこれで４回目、先月１１月開催し何カ月もやっていますけれども、忌憚のない意見をお話ししていただければうれしいと思います。本日の推進会議は、第９期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の素案の件と、介護保険料案の検討になります。円滑な議事進行にご協力くださいますよう、お願いいたします。

３．議　　事

（１）　第９期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（素案）

⇒議案に基づき、事務局より説明　17：33－17：50

事務局：

補足説明させていただく。介護保険料は、月額介護保険料は第５段階の基準額を中心に決められているというような報道のされ方をするが、８期はこの第５段階が 5,900 円であった。今回も準備基金等取り崩すなど工面し 5,900 円と、９期も上げないでいけるのではないかと考え本日お配りしている資料も 5,900 円のままになっているが、皆さんにお配りした後に、介護従事者の賃金分の確保も含めて介護報酬の引き上げが、国から通知があった。私どもで再計算したところ、100 円程度上げないといけないかというところである。それで、第５段階の基準額を 6,000 円ほどでパブリックコメントもご案内させていただきたいと考えている。

草野委員：

前回の数字が抜けていた部分での今回の資料というところに申し訳ないが、最初の１５ページ、表の中の後期高齢者健診の受診率の目標と結果が大体同じ数字になっていていいと思う。この受診率という数字が目標値として大体このくらいなのか、実際は低めなものなのかわからないと思った。他地域だとどのくらいの目標値や実績なのか。このようなところの受診率が高まれば予防にも繋がりやすいのかと思ったので、その点について教えていただきたい。

それから１８ページ、介護分野における人材の確保と育成を図るための助成件数のところで、助成であるので受けたいものかと思うが実際の結果は少ない。何か要因として考えられることがあったら教えていただきたい。

あと、認知症に関する講演会の開催はコロナの影響でできなかったのかもしれないが、今後増やしていこうというところなのか、どうなのかの見込みについて教えていただければと思った。

事務局：

後期高齢者健診の受診率に関してご質問をいただいたが、今日いるスタッフにお答えできる者がいないので私の方でお答えさせていただく。目標には低いのではないかというと、確かに低いが、これは非常に難しくなかなか受診していただけないのが実情である。他市町村、他団体と比べてどうなのかというところは明確にお答えできないけれども、特定検診の受診率は全道平均、全国平均でも高く、道内でも高い位置にいる。それでも５割くらいだが、それを考えると決してこれは他のところと比べて低いことはない。

人材確保の部分は確かに目標よりも下回っているが、これは事業所に対する助成件数になるので、事業所の方で何名かいらっしゃったら、人数でいくと件数はもっと増える。事業所で職員に対する手当をされているところにご支援をさせていただいているので、そのような意味でお取りいただければと思う。

事務局：

認知症の講演会に関する項目については、コロナ禍以前はエーザイさんの方で「認知症をあきらめない」講演会を毎年開催されており、そちらに高齢者福祉課と協力して認知症の相談コーナーや普及啓発をやっていた。今後もエーザイさんとも連携しながら再開されれば、一緒に協力していきたいところである。また、講演会に限らず、研修会や普及啓発を計画の中に盛り込んでいるので、いろいろな形で認知症についての支援策を進めていきたい。

草野委員：

５６ページだが、自分の感覚のずれなのか違和感なのか。目標は目標で掲げられていてそのとおりだと思うけれども、どのような事業を進めていくのにも、そのためにより具体的にどうしていこうというところがもっと明確な方がいい。実際にどうそれを進めてい

けるかというところで、今回は間に合わないにしても、今後のところでより計画を具体化できたらいい。例えば、いろいろな総合事業がある中でもＢの普及率を上げる、Ｃ事業をもう少し展開できるようにする、そこに適用できる方をどのように抽出していくのかなど、増えたところを具体的に動かせるような検討を明確に目標を掲げられると、より周りも取り組みやすいのかという印象がある。

例えば、今ＨＡＲＰでも保健医療課と協働して各老人クラブに運動機能評価にも回っている。やはりそこで虚弱の方が明確に出てきているので、いかにそういった方々を今あるいろいろな資源に繋げていけるかというところを、今後課を超えて協働して取り組んでいけるように私達も協力していきたいし、今後より具体的な目標を掲げながらできたらいいというところで、感想というか意見である。今後そのようにできたらいいと思った。

小山内会長：

これは計画であって実際どう動くかは予測でやっているので、実際にやっていくうえでどのように変化していくかはまた別の問題である。その都度こうした会議を開いて適宜対応していくしかないと思う。

事務局：

前回、松田委員に今後の地域包括ケアシステムの深化・推進を考えたときに介護のためのコミュニティの形成が課題となるので、市として現状このような課題があると把握する必要があるというご意見と、空き家の実態等について調査を実施していただきたいというご意見をいただいたので、その後の状況についてこの場を借りてご報告させていただく。

前回の会議の後、町内会活動の所管であるコミュニティ推進課と、空き家対策の所管である都市建築課とで情報共有を行い、今回出された意見を伝えている。現状、これだという特効薬はないが、今、外国人に関する相談を個別に対応している状況である。問題としては特にごみ出しや観光客のマナーに関する相談が多いということだった。そのため、注意喚起の看板設置や市内ホテルへのチラシ配布にも取り組んでいる。また、言語や文化の違いに対応する必要が出てくるので、多言語による情報提供、外国人居住者の相談対応、町内会への加入促進を声かけし取り組みながら、地域との意見交換会も考えていくということであった。

また、空き家の調査についても把握しなければならないと認識しており、明確な実施時期は今後検討するとのことだったが、これから調査方法を含めて空き家の実態等について調査していく予定であるということで回答をいただいたので、この場でご報告する。また、今後も全庁的に情報共有を行いながら、課題を解決できるように進めてまいりたい。

４．その他

⇒事務局より、今後のスケジュールについて確認。18：02－18：05（前回はこの部分の記載のみ）

事務局：

１月１０日から１月３０日までの期間で市民に対してパブリックコメントとして意見を募集していく。パブリックコメントの意見の内容について、事務局の方で検討をしたのち、２月の上旬から中旬というスケジュールで次回の推進会議を開催させていただきたい。日程が決まったらすぐにお知らせする。

次回の会議において、パブリックコメントの結果報告及び素案の修正、確認を行い、それをもって成案ということで市長に上申する。さらに３月にある市議会に諮り、可決されたら正式な計画の決定となる。

小山内会長：

よろしいか。これは素案でパブリックコメントをまとめ、修正があればまた２月、最終的には市議会を通らなければ決定はできないので、そのような予定で何回か集まっていただかなくてはいけないと思うが、全体を通してご質問、ご意見はあるか。

中村委員：

ここの場所で言うのもおかしいが、いろいろ聞いていると、国の方針、市の方針と計画を立てていくけれども、この間の会議の中での空き家対策や外国人対策といったものが、例えば答弁の中で（あったように）どこかの部署へ言ったらこうでしたではなく、やはり市政の全体の中で考え、自分達の方向性、市民の方向性というか。誰もが、富良野市はこうした問題点がある、例えば北の峰ではこのような問題がある、南町ではこのような問題がある、農村部に行ったら土地の山林の買収が進んでいる。そうしたら、今度真剣に対策をしっかりやって。

それともう１つ、これは計画を組んでいるが、この間新聞に出ていたが 2050 年には市の人口が１万 1,000 人となる。これから団塊の世代が増えていくから介護保険料が上がるのではなく、人が減ったら、働く人がいなくなるからどんどん介護保険料は増えていく。やはりその辺りも富良野市全体、市政全体、そして市民を巻き込んで考えていかないと、いつまでたっても同じようなことをしているのではないか。そうしたことをいつも感じたので、本当は、この会議の中で高齢者の介護だけではなく他の部署の人もいれば、こんなことを考えているのだと思うのではないかといつも思っている。

小山内会長：

この間新聞に出ていたのが１万 3,000 人、夕張は 800 何人だったか。やはり、日本全体が減るという大前提で動いていること自体、これから人口を増やすのにどうしたらいいか国自体の問題でもあるし、富良野は富良野で人口増加のためにどのようなことを考え

ていくのかは、どこの市でも考えなければいけないことである。それは縦割り、横割り関係なく皆さんで考えていただきたい。その中の１つの事業として考えて、そのためにいろいろ苦労はしていると思うが、その部署、部署の特徴もあるので、それに対して十分にすぐ対応できるかどうかは大変だと思うが、これから風通しを良くして、きっと頑張ってくれると信じている。

事務局：

貴重なご意見ありがとうございました。実は、この場所でこの会議が始まる少し前まで人口減少の総合戦略対策会議を開催していた。メンバーとしてはもちろん庁内の部署の人間もいるが、市内各産業、有識者会議ということでいろいろな市民の方も来ていただいて、そこで社人研が公表したどんどん減っていくというデータを見ながら、これから富良野市役所、各産業界でどのようなことをして、人材確保、人口減少を少しでも食い止めることができないかという会議をしていたところである。

いろいろ皆さんからご意見をいただいてそれを、市長も当然座標としていたが、皆さんのご意見を踏まえて今後どうやっていくか、直近でいくと６年度の当初予算にどのように反映していけるかというようなお話をさせていただいたところである。なかなか結果が出ない取り組みではあるが、先ほど言われたご意見も含めて皆さんの意見を取り入れながら、少しでも結果が出るような形で取り組んでまいりたい。

篠嶋委員：

前回の会議でも質問したが、８期を踏まえて９期の案をつくるにあたって、介護予防というところに関しては、読んでいるだけだとやはり、８期の内容を強化します、さらに推進していきますといった、焼き直しのようにどうしても捉えられてしまう。この素案ができてこれが通った後になっても、例えば他の自治体でこういう新しい認知症予防の活動をしているといったことを、誰が調べて誰が推進するのかが全然見えてこない。これが通ったら、よかったでもう終わってしまいそうな気がする。ちょっと調べればいろいろな自治体でいろいろな取り組みをしていて、いいな、すごいなと思うものもある。では富良野市は何をやるのだろう。結局、ちょっと見ると８期と全然変わらない。その辺りの情報を取り入れる、そしてそれに取り組んで進めてみるということは、どのような感じで進んでいくのかをご質問したいと思った。

事務局：

もちろんこれで終わりではない。私達も、他の自治体の取り組みは参考とさせていただくのに常に情報は集めているが、まず一歩ずつ確実に改定後の効果を出したいといったところで、新たなものも小さいが取り組んでいる。例えば、保健医療課と高齢者福祉課で連携して、健康状態不明者を調査してその方が健診を受診できるように繋げていくこともやっており、それも徐々に効果が出てきている。誰とも繋がっていない方を誰かに繋げるという取り組みも大事なので今そちらに取り組み始めて、来年もやっていこうという

ことを保健医療課と話し合ったところである。
　情報を誰が取り入れるかというのは、全職員が常に情報を取り入れているので、定期的に課内会議を開き、こういう取り組みがいいというものを情報共有している。これで終わりではなく、いいと思ったものは計画の途中からでも実施していくので、また太鼓のことなど篠嶋委員にご協力いただけることがあれば相談させていただきたい。今後に期待いただきたいというところでお答えさせていただく。
篠嶋委員：
　僕が以前相談に行ったときはそのような対応ではなかった。そのように進めていただけるのであれば、良く変わっていくのかとも思うので、ぜひそのような考え方で進めていただきたい。
小山内会長：
　他に何かあるか。比較的この会議は気楽に話して、事務局もいい雰囲気ができていると思う。お役所仕事的な雰囲気の会議ではないので、きっといい方向に向いてくれると信じている。市の方もよろしくお願いしたい。

福永副会長：
　今の、例えば篠嶋さんのご意見などを伺っていると、そういうことをやっていきたいといったことを日頃から呼びかけておいて、もし取り組むということであれば、それに対してのある程度の予算を付けるとか事業費を充てるとか、それがどの部分になっていくのかというところがあれば。当然富良野市としてこれは絶対にやっていった方が効果があるのではないかというようなものは、もちろん市が主導してやっていけばいいと思うが、それはなかなか難しいという部分もなきにしもあらずであれば、一般の方からのご意見を伺ってそれを事業として取り入れていく。そういったものにある程度事業費をあてがうというような流れであれば、もしかするといろいろな意見が出やすいのかという感じは受けた。
小山内会長：
　柔軟に対応をよろしくお願いしたい。どうしても市は予算などいろいろあるので、ただ、それでも予備費などがあるので、きっと今後柔軟に対応してくれると思うので、いろいろ相談してみていただきたい。

中村委員：
　これはうちの地域の老人クラブのことだが、いろいろなサービスがあるが良くわからないから、社協で３０分間か１時間説明してもらうという人がいた。実際に市民の、例えば６５歳と７０歳の方でこの中身を知っている人はどのくらいいるのか。悪いが、市の職員等が常に出張に行って説明するような対応をして、そうしたら、今言ったように新しい「こんなことがあったらいい」ということも出てくる。そういうものをこまめにこつこつ

とやって、５年後、１０年後かもしれないが皆が知っているように。例えば今５０代の人も１５年、２０年たてば当然介護の中に入ってくる。そのような段階から説明して、市民が皆知っているようになればいいと思う。やはり先の遠い話だけれども、やはり市民が皆わかるように市に出てきていただければありがたいと思う。

事務局：

高齢者福祉のサービスガイドを今つくっている。そちらを窓口に備え付けているのと、ホームページ、あと広報にもサービスについて載せている。また、いつでも連絡をいただければ、出前講座といって、高齢者福祉サービスについて市職員が出向き説明を行うという講座も随時行っているので、そのＰＲもまた再度行いながら、いつでもお声がけいただければと思う。

小山内会長：

市も頑張ると言っていることなので、実際、そうしたことに関しては市の職員の数という面で思うようにできない部分もたくさんあるとは思うが、頑張っていただきたい。

篠嶋委員：

今のお話だが、例えば他の自治体だととてもわかりやすくマンガにしてお伝えしたりといったサービスもして、そこにお金を使っている自治体もある。おっしゃられたように、字ばかりだとわからない方もいる。僕達は見たらわかるが、わからない人もいる。ではその人にわかりやすくどう伝えるかも１つの考え方だと思うので、説明しました、いつでも行きますではなく、誰でもわかりやすい資料をつくることも考えたらいいかと思った。

小山内会長：

そちらもよろしくお願いしたい。

小山内会長：

あと、何かございませんか。ないようでしたら、これで第４回の富良野市地域ケア推進会議を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

閉　　会　18：18